

和二十四年六月一日選報名特別披承認雜誌第四五三號
和三十年十二月十五日印刷 (每月一回發行)

哲學研究

第三十八卷 第四册

第四百三十八號

昭和三十年十二月二十日發行



哲學と言語……………
ヴァーリジル・C.
オールドリツテ

和合の因果と轉變の因果……………
松尾義海

聖トマスに於ける esse と

existere にして (承前)……………
山田晶

——existere の意味の探究・第三、語原的分析——

彙報

新着外國雜誌所載論文一覽

京都大學文學部内
京都哲學會

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために次の事業を行う
 - (一) 毎月一回研究会を開く
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 毎月一回「哲學研究」を發行する
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく、委員は京都大學哲學科教官及び委員會において推薦した者に委嘱する
- 一、本會は會員組織とし、會員には資格の制限を設けない、學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することもできる
- 一、會員は會費として年一、二二〇圓、又は半年六一〇圓を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け、會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、本會規約の改正變更は委員會の決議による

京都哲學會役員

委員

有賀鐵太郎	池田義祐	石田仁	井島勉	上野照夫	白井二尙	酒井俊修	重澤俊郎	島原芳夫	關原太郎	高田三郎	武内義範	田中美太郎	長尾雅人	西谷啓治	野田又夫	松尾義海	三宅剛一	矢田部達郎
-------	------	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	-------

Tika—Rameçacandra Siddhantaçāstri's Guṇamayī tika on the Sāṅkhyatattvakaṇḍi.

Up.—Çankaramiçra : Vaiçesikasūtra-upaskāra.

V.—Vācaspatimiçra : Sāṅkhya-tattvakaṇḍi.

VS.—Vaiçesika-sūtra.

Viv.—Dhruvhirājaçri : Praçastrapādabhāṣyavivarāna, Kāçī S. S. No. 3.

YBh.—Vyāsa : Yogasūtra-bhāṣya.

余一金十論

(筆者 京都大學文學部〔印度哲學史〕教授)

前 號 目 次

聖トマスに於ける esse と
 existere の區別 (承前)……………山田 晶
 —existence の意味の探究・第二エッセイの誤り説批判—
 ハイデッガーと歴史……………辻村 公一
 の問題 (承前)

新著外國雜誌所載論文一覽

會 告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區田中西浦町弘文堂内京都哲學會係宛に規定の會費(一年、二二〇圓又は半年六一〇圓)をお拂込下さい

「振替口座京都一九五五六番 京都哲學會」

一、會費切れの場合は封筒に「前金切」の印を捺しますから直ちに御拂込下さい、一年分(又は半年分)會費は原則として本誌十二冊(又は六冊)の送附済を以て前金切れとし、會費の變更其他の事情による過不足は一年(又は半年)毎に精算します

一、會員の轉居入退會等(編集事務以外は一切)の事務は弘文堂内京都哲學會係へ御通知下さい

一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄附雜誌等は本會宛に御送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和三十年十二月十五日印刷
昭和三十年十二月二十日發行

編集人

京都大學文學部内

右代表者

發行人

酒 井 修

印刷人

八 坂 淺 太 郎

印刷所

伊 藤 久 春

發行所

弘文堂印刷所

株式會社

弘 文 堂

東京都千代田神田駿河臺四ノ四

註 文 規 定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告に關する件は「弘文堂」へ御申込下さい

一、本誌の御註文はすべて代金郵税共(一部、定價二〇圓・郵税八圓)前金にてお送り下さい

一、特に請求書及び領收書等を要する場合は郵券八圓をお送り下さい

三
十
年
十
二
月
二
十
五
日
發
行
刷
（
每
月
一
回
）

THE JOURNAL OF PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XXXVIII

December, 1955

No. 4

Philosophy and LanguageVirgil C. Aldrich

*Causality of Inherence (samavāya) and
Causality of Evolution (pariṇāma)*Gikai Matsuo

*On esse and existere in
St. Thomas Aquinas (IV)*Akira Yamada

Published Monthly

By

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan

定
價
金
一
三
〇
圓